

国保東庄病院新改革プラン進捗状況について（平成 29 年度実績）

プランの名称	国保東庄病院新改革プラン
策定時期	平成 29 年 3 月（平成 28 年度）
対象期間	平成 32 年度まで
内部点検	平成 30 年 7 月 6 日（内部点検委員会）
外部点検評価	平成 30 年 7 月 12 日（東庄町国民健康保険事業の運営に関する協議会）

点検・評価

第 1 各項目に対する評価

1. 地域医療構想を踏まえた役割の明確化への取組

- ・回復期病床として、安全で良質な医療を継続して提供した。
- ・介護療養病床の転換にあたって、国の動向を注視しながら情報収集を行った。
- ・町内唯一の病院として、下記の医療機能等指標のとおり診療を行った。

目標項目	H29 目標	H29 実績
救急患者数（人）	6 1 0	5 5 8
訪問診療件数（件）	2 1 0	1 6 7
通所リハビリ件数（件）	3 5 0	3 2 5

- ・町広報紙で、病院スタッフによる医療に関する記事を掲載し、情報の発信を行った。

2. 経営の効率化への取組

(1) 医師及びスタッフの確保

- ・医師の確保を目的に、東庄病院医学生奨学金等貸付制度を制定した。
- ・町ホームページに求人情報や奨学金等貸付制度の目的や募集要領を掲載し、PR活動を行った。

(2) 地域医療連携体制の強化

- ・香取海匠地域保健医療連携・地域医療構想調整会議を傍聴し連携体制の情報収集に努めた。
- ・基幹病院である旭中央病院からは外来診療医師の派遣を受け、また、当院の医師は旭中央病院で研修を受け医療技術の向上に努めた。
- ・旭中央病院を中心に近隣病院等と患者の紹介・逆紹介を行った。
- ・膠原病専攻の常勤医師によるリウマチの外来診療を行った。

(3) 病床利用率の向上

- ・平成 29 年度 病床利用率 63%

(4) 診療報酬請求の適正化

- ・他部署と連携し検査、処置等での請求漏れを防止した。
- ・研修会に参加し勉強した内容を職員間で情報共有し、請求の適正化に努めた。

(5) 経費の削減

- ・使用量の少ない薬品や返品が不可能な薬品は、包装錠剤数の少ないものを購入するように努めた。
- ・使用期限の近い薬品から使用するよう徹底した。
- ・複数の業者から見積もりを徴取して、一番安価なところから薬品を購入した。
- ・薬品を積極的に後発医薬品に切替えた。
- ・消耗品等の購入先を見直して、安価な物を購入するように努めた。

(6) 未収金対策の推進

- ・支払期日を定め電話催促、訪問徴収を行った。
- ・分割払いの相談に対応した。

3.再編ネットワーク化への取組

- ・香取海匠地域保健医療連携・地域医療構想調整会議を傍聴し情報収集に努めた。

4.経営形態の見直しへの取組

- ・今後の経営状況を鑑み検討を進める。

5.点検・評価・助言（東庄町国民健康保険事業の運営に関する協議会）

現在公立病院は医師不足の厳しい現状があり、今後、人口減少・少子高齢化が進展していく中で、その地域に合った適切な医療体制をとることが先ず重要と考えます。このような状況下において、新改革プラン中の4つの視点に立ち策定された目標は、いずれも重要であるから全力で取り組んでいただきたい。

また、目標達成の最も基礎となる医師確保対策については、県及び町等関係機関と緊密に連携するとともに、積極的に広報にも努め、最重要課題として取り組んでいただきたい。

以上を踏まえた上で、病院の利用状況等により新改革プランの見直しが必要な場合は、現状の把握と今後の状況を十分調査し、適切な時期に実施していただきたい。